

隠岐島後の南北往来を 安全に繋いだ隧道

中山隧道



国道 485 号は、島根県隠岐郡隠岐の島町^{ふせ}布施から島後の中央部を通り西郷港^{しちるい}へ向かいます。その後海を渡り西ノ島の一部を走り、島根半島の松江市七類^{しちるい}で本土に上陸、国道 9 号の松江道路に接続する、海を越える国道です。

この国道が走る隠岐諸島と本土を結ぶ航路は、明治 18 年（1885）^{たくひ}焼火神社（西ノ島町）の神官松浦 斌^{さか}氏らによって始められ、^{きたがたみち}北方道（現・国道 485 号）が開通した明治 28 年に、松浦の遺志を継いだ有志により隠岐汽船株式会社が設立・開業されて現在に至っています。

隠岐諸島の人々は、長い間、船で他地域と行き交いしていましたが、北西の季節風が吹く冬場の移動は特に困難を極めていました。そこで、^{おち}穩地（現・隠岐郡隠岐の島町）出身の県議会議員中西^{なかつ}荘太郎、中西の志を継いだ藤田辰次郎^{ちんじ}の尽力により、西郷町より中條村^{なかつ}を貫通して五箇村大字^ご北方に至る迄、四里三十町の間、約二間幅の車道」という規模でした。この中間点ともなる五箇・西郷境に手掘りの隧道があります。これが初代中山隧道で、「長三十余間に互れる岩石の隧道」との記述から 50 ～ 60 m の全長と思われます。内部は緑色の凝灰岩で手掘りの跡も残っていますが、西郷側坑口は崩落が進み、上部も岩壁の風化崩落が激しく土砂が流れ込んでおり、現在通行は不可能です。この隧道を掘った石工・高井甚三郎^{しんざ}は二代目福浦隧道もこの後に請け負っていますが、福浦よりも中山隧道の方が多少丸みを帯びているように見えます。

二代目中山隧道は昭和 11 年（1936）に完成した全長 151.2 m の吹付の隧道です。現在、入り口は封鎖され、西郷側は廃道となっていますが、五箇トンネル（全長 699 m）が完成する昭和 59 年（1984）までは、バスも通った隧道でした。五箇トンネルの完成で北方道は国道 485 号に昇格しました。一方、旧道となった五箇側の一部は林道に転用されたため、初代、二代目隧道とも五箇側の坑口は見るができます。

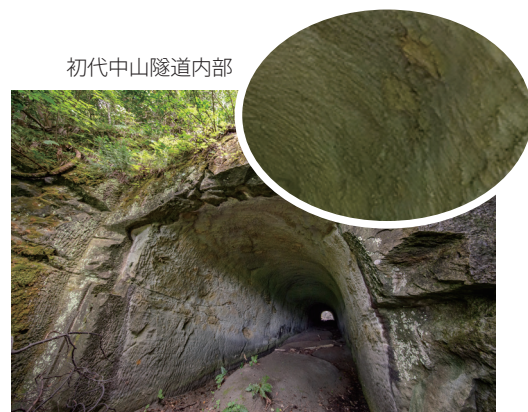


国道 485 号は五箇から五箇トンネルを抜け西郷、西ノ島を経由して松江に至る

■位置図



初代中山隧道内部



明治 27 年（1896）完成した初代中山隧道



バスも通った二代目中山隧道は昭和 11 年（1936）完成



西郷と五箇を結ぶ国道 485 号の五箇トンネル（1984 完成）全長：699m、幅員：6.5m